

「はるかのひまわり交流会」と、1年間の活動を通しての感想から ～抜粋～

・私は、最初の頃は軽い気持ちでひまわりを育てていました。しかし、「はるかのひまわり」について詳しく知ったときに、「絶対にきれいに咲かせる」と心に誓いました。ひまわりに毎日水をやり、時には休日にクラスメイトと一緒に学校まで走って行って水やりをしました。その分だけ、ひまわりが咲いたときにはうれしさと感動でいっぱいになりました。地域の人や、皆を元気にできたかどうかはわかりませんが、私は元気をたくさんもらいました。車で登校したときに、母親が「きれい」とひとと言ったときに、すごい達成感を感じました。「はるかのひまわり」からたくさんのことを学びました。すごく貴重な体験に参加することができて良かったです。

・命の尊さについて考えた。はるかちゃんが、阪神淡路大震災で亡くなったときは、とてもつらく、苦しい思いをしたと思う。しかし、そこから生まれたひまわりが全国で花を咲かせ、自分を含めた多くの人に勇気、感動を届けていると思うと、改めて命の大切さを感じた。中学2年生までの自分は、はるかのひまわりを見ても「きれいだな」としか思っていなかった。しかし、はるかのひまわりに携わってきた松島さんのお話を聞き、東日本大震災や熊本地震の被災地にも種を届けてきたことを知ると、ただのひまわりではなく、人と人との繋がりを象徴する存在になっているのだと考えた。これからも全国で花を咲かせ続けて欲しい。

・松島さんのお話を聞いて一番大切だと思ったことは、震災によって失った人や物、場所などを決して忘れることなく、後の世代に伝えなければならないことだと考えます。失ってしまったものは帰ってこないけれど、そこで得た知識ならば、伝え続ければ絶対に失うことは無いので、途絶えさせることなく伝え続けることを一番大切にして、またいつか起こってしまうかもしれない大震災でできるだけ被害を最小限にできるよう、ここで得た経験をいかしていこうと思います。

・私は、松島さんの話を聞いて、大震災というのはただ怖いと思うものではなく、かけがえない命をたくさん奪った、忘れてはいけないものなのだと感じた。私と同年代くらい、いや、もっと小さく、少ししか生きていなかった命さえ奪っていった震災。親御さんのことを考えたら非常に腹立たしく、悲しいものであると思う。そんな中でも前を向いて進んできた大人達がいるからこそ、今のこの町ができたのだと思った。このことから、はるかのひまわりを受け継いでいこうと強く思った。

・私は「はるかのひまわり」の松島さんのお話や1年間の活動を通して、いのちとは、失ったら二度と取り戻すことができないとても大切なものであることと、自然災害の怖さについて学ぶことができました。一月一日には、能登半島地震がありました。その地震の被災地に寄付をしている人がたくさんいて、そのときに私は、人同士がお互いに支え合って生きているんだなと思いました。このようなことから、私は、自分のたった一つの命を大切に生きていき、助けを求めている人を助けられるようになりたいと思いました。

・阪神・淡路大震災によって多数の尊い命が失われてしまったこと、その中で「はるかのひまわり」が勇ましく咲いていて、多くの人に希望を与えてくれたことから、命の大切さや、勇気づけることの素晴らしさを実感した。これからもいつ災害が発生するかわからない。いつ悲劇が起きるかわからない。しかし、その悲劇に直面した人々を勇気づけることはできると思う。「いのち」を、あつて当然だと思わずに、大切にしていきたい。また、一人でも多くの人々を勇気づけられる、そんな人生を送っていきたい。

・今までは震災や地震などについて、あまり身近なものだと思っていませんでしたが、「はるかのひまわり」の松島さんのお話を実際に聞いたり、震災当時の映像を見たりして、当時の状況は今まで自分が思っていたものと全く違い、一瞬にして大切なものや大切な人、大きな建物が波や揺れに奪われていく状況であったことがわかりました。阪神・淡路大震災で失われたはるかさんの命をつなぐためのプロジェクトに東中生として関わることができて良かったと思いました。自分の命も他者の命も考えることのできる人になりたいです。

・「はるかのひまわり」の松島さんのお話を聞いて、「はるかのひまわり」は今まで心に深い傷を負った方々を勇気づけ、希望を与えてきたのだとわかりました。今の兵庫県があるのは、人々の努力や亡くなった方々を決して忘れないという思いがあったからこそだと思いました。約1年間、「はるかのひまわり」を育ててきましたが、夏の熱い日差しに負けず立ち向かうように伸びる姿は、ひまわりの花言葉の「光輝」のような凛々しさを感じました。これから先、辛さに呑み込まれそうになっても、希望を持ってひまわりのように前を向いて歩いていきたいと思いました。

・「はるかのひまわり交流会」を通して、人との関わりや命の尊さ、後世に伝えることの大切さを学びました。助け合いや支え合いをすることは、相手やみんなのことを救う手助けになるし、自分の心も救うのだなと感じました。また、人と関わることで希望が生まれ、新し

い自分を作るスタートにもなれると思いました。命の尊さは、誰かが亡くなったから知るのではなく、そこから進み始める、歩き始めることから感じられるのだと思いました。辛い気持ちも嬉しい気持ちも、大変だったことも、これからこうしていきたい、こうして欲しいという気持ちは、これからを創っていく人たちに伝えていくべきだと感じました。そうすることで、失敗を繰り返さないことに繋がるし、もっとより良い社会や未来ができあがっていくと思います。これらは、伝統伝達式で後輩に伝えていきます。思いが伝わって欲しいと思います。

・はるかのひまわりの活動を通して、私はたくさんの方のことを学びました。約29年前に起きた悲しいできごとの思いを、ひまわりの種を通して、今でもいろんな人たちが受け継いでいることにとっても驚いたし、自分がそのプロジェクトに携わることができて本当に良かったなと思えました。29年前、私はまだ生まれていなくて、何があったのかということは今まであまりわかりませんでした。けれど、当時の映像や松島さんのお話を聞いて、とても悲しい気持ちになりました。あんなことがあったのに、被災した方々が一生懸命町を元気づけようとしているのを見て、とても心が動かされました。

・「はるかのひまわり」の松島さんのお話から、人生というものは一度きりで何が起こるか分からないけれど、思いや願いは人の手によってつながれていくと学びました。私は中学校3年間の「総合的な学習の時間」で、「いのち」や「夢」、「あきらめないことの大切さ」について考えてきました。「いのち」は尊くかけがえのないものですが、震災などがきっかけで失ってしまうこともあります。今を生きる私たちにとって、なくてはならない「いのち」を大切に、夢に向かってあきらめず頑張ろうと思えました。新たな発見や、これから先の生き方を見つけることができた気がします。

・「はるかのひまわり」について、絵本で見聞きしたことはあっても、経験者の口から告げられる当時の様子や心情、そして実際の映像は想像よりも重々しく、正直目をそらしたかった。それでも、目に涙をためながら私たちに話してくれた松島さんや、乗り越えてきた被災者の方々、忘れないようにとこのプロジェクトを始め、今日まで広め続けてきた方々の決意や姿は、とても輝いて見えた。忘れたいけれど、忘れてはいけない記憶をもつ方々の気持ちは、きっと自分が想像できないほど悲惨なものだと思う。私たちにできることは、その思いを忘れずに、また語り続けることであり、多くの失われてしまった命よりもさらに多くの命を守ることが、その行動でできることではないかと、この機会を考えさせられた。

・私はこの1年間、「はるかのひまわり」の学習・活動を通して、自分の命や、一日一日はかけがえのない大切なものと改めて考えることができました。特に、「はるかのひまわり講演会」で松島さんの「はるかのひまわり」への思いや、実際に震災を体験した人たちの思い、願いを聞いて、私が復興に向け力になれることは本当に少ないけれど、「はるかのひまわり」を沢山のの人に伝えて、人と人の心を繋いでいきたいと思いました。松島さんやひまわりのように、辛いことや挫折そうなことがあっても、諦めず一步を踏み出せる人になりたいと、1年間の活動を通して思いました。

・命はとても大切でかけがえなく、誰もが平等に尊重されるべきものだと思います。今年起こった地震からもわかるように、私たちの命はいつ脅かされるかわかりません。いつも通りの日々に、突然危険が降りかかるかも知れません。もしくは、私たち自身でなく、大切な人が被害に遭うかもしれません。きっと、そうなったとき、わかったつもりでいた「命のかけがえのなさ」を再び実感し、後悔すると思います。明日、自分が生きているか、その保障はないのだということ、それは周りの人も同じだということを常に頭に置いて、いざというとき後悔しない生き方をしたいです。

・「はるかのひまわり」の活動では、沢山の人が様々な思いを抱えながら種を植えていることがわかりました。松島さんのお話を聞いて、とても辛い思いをされたんだと感じました。私たちも東日本大震災を経験し、少しでも心の支えになるようにと、全国各地から支援が来しました。この「はるかのひまわり」も同じ思いで送られ、花を咲かせているところを動画で見たら、涙が出そうでした。いつ自分の命がなくなるかわからないけれど、この尊い命を簡単に捨てることのないようにしていきたいと思いました。そして、毎日幸せに生きることができているこの日々を大切にしていきたいと思いました。

・初めの頃の私は、「はるかのひまわり」の水やりを欠かさず、大事に育てようと思ってやっていたけれど、「どうして遠い地域の私たちが受け継いでいるのだろう？」と疑問に思っていました。松島さんのお話を聞いて、思いを伝えるために全国に行き、そこから「命のリレー」としてつながってきたのだとわかったし、絆プロジェクトの大きさに驚きました。見たビデオがとても現実のものだと思えなかったけれど、だからこそ、この衝撃的なできごとを乗り越えた人々の思い、松島さんが言っていた「命と人の繋がり大切さ」を私たちも受け継いでいきたいと思いました。